

インターバンクの声（2017年12月12日）

週明けの海外市場は、翌日以降には米生産者物価指数や消費者物価指数の発表、さらには FOMC、英中銀や欧州中銀の金融政策会合の開催を控えているものの、相場には手掛かり不足の一日だった。円相場も東京市場の朝方からの緩やかな円買い・ドル売りがニューヨーク市場の朝方まで続いた。そのニューヨーク市場では、朝の通勤・通学が始まったマンハッタンの中心部で爆発が起こり、テロ未遂と断じられたことで安全資産の円が買われ、113 円 24 銭の昨日のドル安値を付けた。数人の負傷者が出てしまったが、もっと深刻な被害が出ていればドル売りがさらに進んでいたかも知れず、想定外の出来事の相場への影響に改めて怖さを感じる。この後の市場はニューヨークダウを中心に株価が上昇し、何と言っても FOMC で利上げを決定するとの観測から、円相場も 113 円台半ばまで戻した。今日の東京時間も 113 円台での値動きが続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。